

学び合い教え合う学園へ

平成26年度 FD・SD活動報告書

郡山女子大学・郡山女子大学短期大学部



平成27年7月

学園教育充実研究会

目次

1. 前期授業公開（対象指定型）	4
大学	4
短大	7
2 全授業公開期間	9
3. 学園教育充実研究会（大会）	10
教職員合同研修ーワールドカフェ in KGCー	11
ブランディングWG企画ー理想とする“卒業生からの手紙”	12
授業実践シンポジウム	13
学園に対する理解を深めるためにー補助金と大学ポートレートについて	16
4. 各種研修会・ワークショップ	18
高等学校における進路指導の状況について	19
平成26年度 第1回 アドバイザー業務研修会ー基礎編ー	20
学士教育の質的転換に向けてー職員による学修支援ー	21
グループウェア・ステップアップ研修会	22
科研費説明会ー応募手続きの理解と獲得に向けてー	23
食物栄養学科セミナー：てんかん研究の潮流ー 症候群から遺伝子病へー	24
ラーニング・コモンズ研修会：同志社大学良心館ラーニング・コモンズの目的と実際の運用	25
平成26年度 第2回アドバイザー研修会ーコーチングを学ぶー	26
私学を取り巻く諸情勢と学校法人郡山開成学園の現状	27
障がい学生支援研修会：発達障がいと思われる気になる学生への理解と対応について	28
食物栄養学科セミナー：学校における食育の推進と学校給食の役割	29
5. 事務局職員 外部研修参加記録	30
総務部	30
経理部	31
管財部	31
入学事務・広報部	32
教務部	32
学生生活部	33
就職部	34
図書館	34
家庭寮	35
高校事務室	35
幼稚園事務室	35
学園教育充実研究会（SD 部門）	35

FD・SD 活動報告書に寄せて

ファカルティ・ディベロップメントという言葉が巷間に流布して、はや 20 年あまりになります。近頃では、GPA、CAP 制、アクティブ・ラーニング等々の新たな言葉が次々に現れ、世はまさに教育新語の花盛りといった趣です。

良い面を見れば、このことは、大学が、教育機関として自らの襟を正しつつあるということの顕れともいえましょう。かつて「マスプロ教育」と揶揄された大学の教育は、いま姿を消しつつあります。

一方で、この新語の乱舞という様相には、目眩を覚えるとともに、ある種の懸念も感じます。教育とは産業技術のように、日々刻々と姿を変えるものではないでしょう。教育の本質は、悠久の昔から、教え手と学び手の心の交流そのものにありまして、これからもそうあるべきです。そのことを見失えば、新たな制度や教育方法も、まさに仏作って魂入れずということになりましょう。

翻って、本学の教育はいかがでしょうか。自負するわけではありませんが、本学では、こうした新語が巷間をにぎわす以前から、教育の改善活動を組織的に行って参りました。教職員の研修を担う学園教育充実研究会はすでに半世紀近くの歴史をもち、連綿とその活動を次の世代へと受け継いで参りました。

学園教育充実研究会の活動が、ファカルティ・ディベロップメント、スタッフ・ディベロップメントとその名を変えても、その本質は、本学の良き伝統の中に位置付けられるものでありましょう。かねてより本学は学生のひとりひとりに寄り添う教育を大事にしてきました。いつの世になっても、私たち教職員は、その心を忘れずに、ひとりひとりの学生に向き合っていきたいものです。

平成 27 年 7 月 31 日 学園長 関口 修

本年度の FD・SD 活動を振り返って

学園教育充実研究会 主任

垣花真一郎

今年度は、一昨年、昨年に導入した諸制度の改善・拡張がテーマとなった一年であった。主に、「授業の改善」、「大会・研修会の充実」を主要な課題とした。

「授業の改善」に関しては、第一に授業評価アンケートの活用を促進することが課題であった。年度当初に自己点検・評価委員会に働き掛け、各学科の PDCA の Plan に授業評価アンケートの活用に関する計画を盛り込んでもらうようにした。このことで、組織的な授業評価アンケートの活用が進んだ。ただし、学科によるばらつきが大きい点は今後の課題である。第二に、授業公開の促進である。前期の授業公開は、大学 1，短大 1 の 2 つの授業を公開することを教授会で承認を得た。また、後期の全授業公開期間についても、参観を任意とするなど、前年度から実施方法を改善した。制度としては安定期に入ったものと思われるが、「実効性」という意味では未だ改善の余地がある。

「大会・研修会の充実」に関しては、第一に、夏の大会の改善が課題であった。今年度は、ワールドカフェのテーマを「学園の改善の具体案」としたため、議論は格段に活発になった。その後、実現された案も多く、改革改善の推進力になったと評価する。第二に、研修会の拡大である。今年度は、「研修メニューの拡充」「教職員の参加促進」という 2 つの狙いを実現させるために、①研修開催主体の他部署・委員会への開放（研修メニューの拡充）、②参加回数ガイドラインの導入（参加促進）を行った。その結果、研修会の開催回数は年間 11 回に上り、約 9 割の教職員が参加回数のガイドラインを上回った。研修機会の充実という点では飛躍的な向上が見られた年であった。

1. 前期授業公開（対象指定型）

本学では教員の授業実践力の向上を目的に、学園教育充実研究会発足以来、対象学科を1学科ないし2学科選定し、授業公開を行っている。本年度から、毎年、大学1学科、短大1学科が担当することとなった。今年度は、大学は人間生活学科、短大は文化学科が担当対象学科となった。

大学

実施概要

- 授業担当者 武井 玲子 教授
- 科目名 衣生活概論
- 開講期 平成26年度前期
- 公開日時 平成26年6月24日（火）IV時限（14:30～16:00）
- 教室 632 教室
- 対象学生 人間生活学科1年 計17名(登録者：19名)



公開授業の概要

1. 公開された授業（本時）のねらい

本授業は、「総合科学の視点で衣生活をみつめる」ことをテーマとして進めているが、公開授業のテーマは、「被服の手入れ・洗濯」についてであり、資料の説明、板書、ビデオ視聴に加え、ビーカー内実験を見ながら、洗剤（界面活性剤）の汚れが落ちるメカニズムを理解することをねらいとしている。比較としてドライクリーニングによる汚れ除去についても観察し、両者のメカニズムの違いを理解する。

2. 授業内容

- (1) 開始挨拶・出席確認
- (2) トピックス発表（4人）
- (3) 前回のフォロー（布サンプルリストの返却）
- (4) 本日の授業内容と進め方
 - ① 本日のテーマである「汚れと汚れ除去方法」の説明の最初に、汚れの種類と分類を板書し、さらに配布資料を基に説明した。既に、2回目の「制服の管理」に関する授業にて簡単に説明しているので、復習となる事項である。
 - ② 次に、汚れの除去方法の種類と特徴を配布資料と板書にて説明した。
 - ③ 家庭洗濯とドライクリーニングの違いと特徴を説明した（配布資料）。
 - ④ 家庭洗濯は、界面活性剤の持つ機能で汚れが落ちることを説明後、界面活性剤の汚れ除去メカニズムについてビデオで理解を深めた（20分）。
 - ⑤ 家庭洗濯（界面活性剤）とドライクリーニング（溶剤）の汚れ除去の特徴を、ビーカー内実験で確認した。汚れとして水溶性の角砂糖、無機汚れのカーボンブラック、油溶性色素で赤色に着色したサラダ油、型崩れの有無を観察するために折りしわを付けた木綿布、トイレットペーパー製の折鶴を用いて、比較実験をしながら説明した（20分）。
 - ⑥ まとめ：家庭洗濯、ドライクリーニングは汚れの種類に対する作用に長所、短所がある。これらの特徴を把握して、被服についている表示に従って洗濯方法を選び、汚れ除去をすることが大切である。その結果、汚れは良く落ちるし、型崩れなどの被服の損傷も防止できる。
- (5) ミニッツペーパー記入
- (6) 次週授業説明

3. 工夫した点（参観のポイント）

- (1) (1) 授業内容
 - ① 生活総合コースと福祉コースおよび教職資格取得予定の学生にとっては、必修科目であり、衣生活全般に関して知識や技術を総合的に学ぶ唯一の教科となる。そこで、学んだ知識や技術を実生活で応用できる内容とする。
 - ② また、衣生活全般が対象となるので、自然科学、社会科学・人文科学を含めた総合科学の視点から人間と被服、それを取り巻く環境に関係した内容の授業を展開することをめざす。
 - ③ 中でも、最近の学生が苦手としている自然科学、生活科学的内容、例えば、繊維、染色、防虫剤、洗剤、等を生活化学的視点で学ぶ授業を行う。
- (2) ミニッツペーパーの活用

授業終了5分前にその日の授業内容や感想などをミニッツペーパーとして書かせている。これは、授

業がどの程度理解されたかを把握したり、私自身の授業の振り返りとして活用し、必要に応じて次の授業の最初に前回の復習としてフォローアップしている。

(3) 最近のニュース内容をトピックスとして発表させるキャリア教育

一般常識・社会に対する関心を高めること、発表を通じてコミュニケーション能力アップをめざすことを目的に、授業の最初に最近 1 週間に関心を持った事柄をトピックスとして発表させている。時間は 5 ～10 分。当初は、衣生活をニュースの対象と限定したが、テーマが見つけれない学生がいたことから、生活全般と範囲を拡大した。1 回に 4 人が発表することで、15 回の授業で、ひとり 3 ～4 回の発表となる。発表は、単にニュースを紹介するだけではなく、どうして関心をもったか、取り上げたニュースに対してどう感じたかを主観を交えて発表することを義務づけ、自分の考えや意見を堂々と発表できるようにするための練習、と意識させ、どんな考えであっても自信を持って発表するように説明した。発表回数が増えるにつれ慣れてきたこともあり、しっかりした内容や態度の発表となり、聞いている学生も関心を持つようになってきている。

(4) 楽しく学べる授業

5 コマ目の授業となると、学生は心身ともに疲れている。そのような状況の中でも、学ぶ楽しさを感じ、意欲的に取り組めるような授業としたいと考えている。そのために、見せる、読ませる、話させる、触る、書かせる等の五感を発揮できる方法で授業を展開させる工夫をしている。

具体的には、学生一人一人の所持・死蔵衣服の調査とその結果の発表と自己評価、天然繊維、化学繊維からなる 30 種類の布の標本リストを作成、衣生活はじめ生活環境に多い微生物による汚れの代表として自分の歯の汚れと除去方法の確認、界面活性剤の汚れ除去実験、染色体験、生理用品の吸収メカニズム実験、などである。

(5) 時代に即した関連テーマの紹介や、最新データを採用

生活に関する意識やライフスタイルの変化、商品の技術進歩やサービスの変化は、めざましい。可能な限り、最新の知見や情報を取り入れた授業ができるように、意識的に新聞や TV などマスコミ情報を授業の題材として採用するように努力をしている。

4. 授業の自評

普段の授業において、説明や解説が中途半端であったり十分に説明ができていなかったり、抜けていたり、反省する点が多い。今回は、公開授業でもあり、そういうことのないように準備を十分したつもりであったが、最後のまとめがきちんとできなかった。また、ビデオや資料、板書、実験と説明材料を準備したにもかかわらず、ひとつひとつの説明が不十分であった、という点が反省である。

5. 公開授業に対する感想

- (1) 今回の公開授業に対して 40 人以上の教職員の皆様にご覧いただけたのは、たいへん光栄であると感じた。しかしながら、授業時間の繰り上げや教室変更をせざるを得なかったことは、通常授業の参観が目的であれば、環境の変更は通常でなくなる要因の一つとなり、今後の検討課題としていただきたい。
- (2) 検討会では、参加された先生方が遠慮されている様子で皆様のご忌憚のない意見をお聞きできずに残念であった。無記名のアンケートでも良いので、率直なご意見をお聞きしたかったと思う。
- (3) 今回、私が公開授業をするようにといわれた理由は、学生の授業評価が良かったからといわれた。学生の率直なる評価も重要で無視できないと感じているが、一方、学生は、期末試験の評価が厳し

い先生よりも甘い先生を高く評価したり、個人的な好き嫌いで評価する等、本質的な授業評価となっているかどうか疑問もある。学生にとって良い授業とはどのような授業なのか、それは科目によっても異なるし、教員一人一人の重要な課題であると常日頃考えている。今後の発表担当者の選択について、例えば、専門科目、教養科目の違い、経験の有無等、あるいは学生の評価項目の中で重要と考える項目の評価が高いあるいは低い担当者とする等、今後検討していただきたい。

短大

実施概要

- 授業担当者 阿部 俊夫 准教授
- 科目名 日本文化史
- 開講期 平成 26 年度 I 期
- 公開日時 平成 26 年 6 月 23 日（月）Ⅲ時限（12:50～14:20）
- 教室 833 教室
- 対象学生 文化学科 1 年（21 名） 生涯学習聴講生（2 名）

公開授業の概要

1. 公開された授業（本時）のねらい

堀江家（伊達市梁川町）に残る『女古状揃園生竹』『百人一首浜真砂』は娘はまが愛読していた女子用往来である。女子用往来 2 冊の講読により、堀江家の娘が抱いた望まれる女性像、女性の心がまえと考え方を検証してみる。はまが学生自身より年少であったことも理解させる。

2. 授業内容

出席確認・資料配布（約 5 分）

【導入】前回の復習として女子用往来が未婚の女性向けの日常生活先般の教本・教科書であることを指摘し、今回の授業目的を解説した。（約 5 分）

【展開】

①江戸の出版（約 20 分）

和本がどのように出版されたのか。地本問屋「耕書堂」を事例に解説した。

②堀江家の由緒（約 20 分）

堀江家は伊達郡梁川村に居住し、江戸時代初頭より続く旧家であることを指摘した。

③堀江家の女子用往来（約 40 分）

江戸の出版物が梁川村に伝来したことを指摘し、女子用往来 2 冊の口絵と本文を解説しながら、上層の農家に生まれた未婚の女性が将来に向けて抱いた女性像を検証した。雅な歌人の口絵から、百人一首が上品な都風の礼儀作法を学習する教材として流布していたことを指摘した。

3. 工夫した点（参観のポイント）

①学生が授業内容を最も効果的に理解できるようにするため、資料、パワーポイント、板書を併用して授業を進めた。

②授業内容に適合する図像 30 点を厳選し、資料No. 1～30 として A3 用紙 4 枚に授業の進行順に配列し

た。また、授業の要旨を A4 用紙 1 枚にまとめた。変体仮名一覧 A4 用紙 1 枚を加え、計 6 枚の資料（プリント）を配布した。

③資料No.1～30 をパワーポイントにより投影し、パワーポイント画像と対応させながら資料の内容を解説した。パワーポイント画像には資料番号を明記した。学生の理解を配慮して、学生周知の類似する図像も投影した。

④解説した資料の要所・要点を、パワーポイント画像で指し示しながら板書した。裁縫・洗濯の様子を描いた資料の詞書、宗門人別帳の人名表記（漢字と仮名）、「女用文浜の真砂」の序文などである。

⑤必要に応じて学生と質疑応答して、理解の程度を確認しながら授業を進めた。



4. 授業の自評

①授業時間 90 分をよく考慮して、授業を進めるべきであった。授業前半にやや多くの時間を費やしたため、本題である後半は時間不足になってしまった。

②資料No.1～30 とパワーポイント画像の対応に苦勞する学生も見受けられた。資料の点数が多かったようにも思う。

③学生との質疑応答、板書の書写などにより、授業内容についての理解をある程度は確認できたが、積極的な学生の反応は少なかった。

5. 公開授業に対する感想

検討会において、多くの先生方から授業に関する有益なアドバイスを受けた。見過ごしていた授業の不備を把握することができ、今回の公開授業は自己点検の良い機会となった。お礼申し上げます。

2 全授業公開期間

前期の授業公開が公開者を限定し、授業検討会で授業に対する認識を深めていくのに対し、後期の授業公開では、全員が授業を公開する。また、職員も授業の参観を受け入れるのも大きな特徴である。

I. 背景と目的

- (1) 授業力の向上が必要な教員の研修機会を提供する
- (2) 全教員の授業力のさらなる向上
- (3) 「学び合い、教え合う学園へ」の相互扶助の精神によるFD・SD活動の実現

II. 公開方法

■ 公開時期

後期：11月4～5週の2週間（11/17～28）。一般的には第10回、11回の授業。

■ 公開について

- ① 「公開免除の規定」により免除されない限り、全ての自身の授業を公開する。
- ② ①参観者から事前の連絡が欲しい場合、②注意事項がある場合、③（特別な理由により）非公開の場合、はその旨をグループウェアのスケジュールの「メモ欄」に記入する。
- ③ 上記②の記入は当該授業日の1週間前迄に行う。
- ④ 参観者があった場合は、公開期間終了後に参観者名簿を充実研に提出する。

■ 参観について

- ① 教員・職員ともに、期間中の参観を任意とする。
- ② 参観1回につき、研修会参加1回分としてカウントする。
※参観の有無（回数）は提出された参観者名簿より、充実研が集計する。
- ③ 参観する際には、参観者名簿に記帳し、授業終了後には、感想用紙を授業担当者に提出する。
- ④ 参観は授業開始から終了までを原則とするが、2時限連続の授業等においては、1時限分のみでも可とする。



3. 学園教育充実研究会（大会）

学園教育充実研究会（大会）は、昭和 44 年（1969 年）より、学園の教育の充実を図ることを目的として実施されている教員・職員の研修大会である。なお、本委員会の名前も、この大会の名前に由来している。平成 26 年度は、前年度に引き続き「学び合い、教え合う学園へ」をテーマに掲げ、教職員が主体的に、自らの研鑽をつめるような多様な企画を行った。

■ 実施日程

平成 26 年 9 月 2 日（火）8:50～16:40

■ 会場

開成大神宮参集殿／本学園



影山副学長による開会の挨拶

平成 26 年度 学園教育充実研究会（夏の大会）プログラム

種別	時間	事項
開会式	8:50～9:00	学園長開会の辞・学園教育充実研究会趣旨説明
FD, SD	9:00～12:00	ワールドカフェ in KGC
FD, SD	13:00～14:20	ブランディング WG 企画
FD	14:40～16:00	授業検討シンポジウム
SD	14:40～16:00	学園に対する理解を深めるために一補助金と大学ポートレートについて
閉会式	16:20～16:50	各部会報告・学園長閉会の辞

教職員合同研修—ワールドカフェ in KGC—

ファシリテーター 垣花 真一郎（人間生活学科・充実研）

サブファシリテーター 泉 秀生（人間生活学科・充実研）

「ワールドカフェ」とは、対話する相手を変えながら、少人数での対話を積み重ね、全員でテーマを彫り上げていく「大規模型ダイアログ」である。話しやすい少人数でのダイアログからはじまり、メンバーを替えて対話することにより、アイデアをつなぎ合わせていく。職種や職位などの垣根を越えて対話を行うという点も特徴である。今回は「明日の学園を考えよう」をテーマに、対話を行った。

実施方法

実施時期

2014年9月2日の学園教育充実研究会の午前中の全体会の企画として実施した。

参加者

大学教員 44 人、短大教員 51 人、事務局職員（高校事務局を含む）50 人、計 145 人。

討議テーマ

今回は下記のように、「明日の学園を考えよう」をテーマとして、「本学の強み・弱みとは」「本学園が今後取り組むべきことは」を下位設問とした。



対話の様子（1）



対話の様子（2）



「収穫」時の様子



チェックアウト（ベストいいね発言選出）時

ワールドカフェ in KGC 2014 のタイムテーブル

事項	時間	備考
チェックイン	9:00～9:10	流れの説明
対話Ⅰ（＋ウォーミングアップ）	9:10～9:50	問1 強み・弱み
対話Ⅱ	9:50～10:30	問2 取り組み
休憩	10:30～10:40	
対話Ⅲ	10:40～11:20	問2 取り組み
収穫	11:20～11:40	見て回る
チェックアウト	11:40～12:00	ベスト発言選出

参加者の感想（抜粋）

- ・ 今回の活動がどう次年度の活動につながっていくのか、期待がもたれます。
- ・ 充実した内容の研修会でした。準備いただいた先生方は本当にたいへんだったことと思います。ありがとうございました。
- ・ 参加型プログラムがあることは意識が高まって良いと思われた。意見を出し合う機会の後の具体的な行動に向けての時間が次のステップとして設けられるとよいと考える。一部の部署で行うのではなく今回のような全教職員によるグループワークとして実施する形で。
- ・ ワールドカフェはぜひ継続してほしい。午前、午後を統一して1つに集中してはどうか？
- ・ ワールドカフェで話し合った内容を少しでも実現させていただきたいと思います。他学科の先生方と協力できるといいなと思っております。
- ・ ワールドカフェで平等に意見を交換出来、そこから未来に向かって取り組むべきヒントやアイデアが沢山生まれたことは素晴らしいと思った。一日中缶詰め、詰め込み、飽和状態よりも、時間的に余裕があるところでも研修の方がより豊かな発想も湧いて来ると思う。
- ・ 本学園が今後取り組むべき問題について、多くの先生方と語り合うことができとても有効であった。是非短期的に実現できるものについては行動を起こしていくべきであろう。
- ・ ワールドカフェでは昨年に引き続き、強みや弱みについて考え、話し合うことが出来て、とても良かったです。郡山女子大学の魅力がたくさんの人へ伝わるように、自分にも出来る事を努力していきたいと思いました。
- ・ 学園全体で、考えて、方向性を見出すことは、とても大切なことと思いました。

ブランディングWG 企画—理想とする“卒業生からの手紙”

ファシリテーター 井上 万成（株式会社リクルートマーケティング 進学事業本部）

サブファシリテーター 千葉 裕輔（同上）

本学のブランドづくりにおいて重要な要件の一つに、「本学らしさ」の共有・発信が挙げられます。卒業生の成功事例やロールモデル（模範的モデル）について発信する際には、その成功にいたった学びの背景（＝教育理念・教育体制など）に関する分かりやすい説明が必要になります。今回は、理想とする“卒業生からの手紙”を事前書き起こすことで、本学の卒業後・在学中・入学前のロールモデル（模

範的モデル) を具体的なシーンやエピソードと共に再確認します。ワークショップでは、その手紙をグループ内で共有しながら、本学ならではの価値を「ファクトベース (具体的な事実)」として、共有・摺合せ・言語化していきます。最後に、各グループで言語化した「価値フレーズ (本学に入学する価値を簡潔に表したもの)」を全体で共有します。

参加者の感想 (抜粋)

- ・ ブランドの説明がよかった。ビジョンに沿った授業の構築について考えたい。
- ・ 卒業生からの手紙について、時間がなく深められなかったのが残念でした。今回の会が次回に活かされるよう期待します。
- ・ 「卒業生からの手紙」は、価値フレーズを作るといった面白い内容であったが、時間をかけて書いた手紙が活用できなかったのは残念だった。事前にパート分けし、その手紙だけ書くというわけにはいかなかったのか疑問に思いました。
- ・ ブランディング WG は企業の方をお招きして「本学園らしさ」の共有を深める良い機会だった。本来時間をかけて行うものと認識していたのなら、事前にグループを知らせ担当となる課題だけで良かったと思う。

授業実践シンポジウム

栄養系実習の充実に向けて

司会： 岡部 聡子 (大学 食物栄養学科 講師)

栄養士・管理栄養士の技術のひとつに「おいしく健康的な食事の提案・提供」がある。いわゆる献立を作る力、献立力である。献立如何でその栄養士の力量を判断されることも多く、実践力の問われる実験・実習科目である。短大では献立作りの楽しさを伝えることに重点を置き、大学では献立の発展として、提供時の品質管理の視点も踏まえて指導を行っている。それぞれの立場から、両先生の授業の実際についてお話を伺う。

亀田 明美 (大学 食物栄養学科 講師)

大学の給食管理実習では、「1回 100食以上の食事提供を計画・実施・評価できる」を到達目標の一つに掲げ、5回程度の食事の提供を行っている。特に、「計画通りに食事が生産・提供されたか」について評価を行わせることで、品質管理の重要性について理解できるよう進めている。また、改善が必要な事項については、学生自身に改善策を考えさせ、次の実習へとつなげるなど、PDCAサイクルを意識した実習を目指している。

小林 澄枝 (短大 家政科食物栄養専攻 講師)

栄養士に必要な能力の1つに、対象者の栄養計画を、食事計画、献立、調理へと展開できることにある。この能力は、栄養、食品、調理、衛生などに関する知識と技術を基礎として、対象者に適用できる献立を示すことである。給食論実習Ⅰでは、班を編成しグループで「型紙」を利用した献立作成とプレゼンテーションを行う形態をとり、具体的な条件の積み重ねにより、献立作成の楽しさと喜びを共感できるよう進めている。



司会者まとめ

本部会では教員 26 名が参加し、実習における献立を作成する技術の向上に向けて、お二人の先生方にそれぞれの立場からお話しいただいた。

小林先生の短食 1 年生の授業では、学生のモチベーションを上げる工夫として『褒める』ことと病院での行事食の紹介や患者さまからいただいた手紙を読み聞かせ、『企画・実施し、喜ばれる仕事は他にない』と語り、栄養士という仕事の魅力を伝えることに力を注いでいた。

亀田先生の大食 3 年生の授業では 1 回 100 食以上の食事提供を考慮した献立作りについてお話しいただいた。指導に一番力を入れているところは提供する学食の品質保障である。試作を繰り返し、自信を持って提供給食を作成すること、そして出来上がり量を計量して均等に分配することである。学外実習に向けて献立を作る力のある学生を育てるという学生の品質保障にも繋がっている。全体討論では献立の作成に関わる他の教員や、他学科からはグループワークをさせるうえでの工夫についてなど質問や感想が寄せられた。本シンポジウムでは両先生の講演から、学生のやる気を引き出すことと、確実な技術を身に付けさせる学生の品質保障の両側面からの指導の大切さを強く感じるよい機会となった。

日頃の教育における本学のキャリア教育の活用について考える

司会： 桑野 聡（短大 文化学科 准教授）

経済危機から第三者評価の導入、少子化問題やゆとり教育の影響など、大学・短大の教育環境を取り巻く状況は大きく変わりつつある。こうした中、本学では建学の精神に基づく教育活動と深い親和性をもつ「キャリア教育」を全学的取り組みとして開始することとなった。そして、これは特定の授業科目によってのみ担われるものではなく、学科の専門教育を中心に全教職員によって展開されるものと位置づけられている。本部会では「キャリアデザイン I」の授業内容から、これを日頃の教育活動の中で広

く活用していく可能性について二人の先生にお話を伺い、始まったばかりの本学のキャリア教育の可能性を模索したい。

山口 猛（短大 家政科福祉情報専攻 講師）

短大家政科福祉情報専攻では、社会人としての意識やマナーの教育と就職対策を目的とした専門科目「ビジネス基礎Ⅰ・Ⅱ」を開講している。報告では、本科目で山口が担当する自己分析・自己形成の取り組みを紹介する。

具体的には、キャリアデザインⅠで作成した「夢への地図」をより深く掘り下げるために、マインドマップを用いた「自己分析」「他己分析」「ブランディング」の実施内容について述べる。

小松 太志（短大 生活芸術科 講師）

教育現場におけるキャリアプランニングシートの活用事例の紹介、及び本学における活用可能性について提案する。

キャリアプランニングシートとは、将来の目標と目標達成に必要なスキルや資格を記載するものである。作成を通して、大学生活における学修の動機を明確化することで、主体的行動力や論理的思考力を培う契機となることが期待される。学生の個別指導にも有益であるとの事例報告もあり、アドバイザーによる学生指導に活用できるものとする。



司会者まとめ

本シンポジウムは、まだ導入されて間もない本学のキャリア教育への取り組みを紹介したものだった。司会の趣旨説明と本学のキャリア教育の全体像の説明に続き、短大福祉情報専攻の山口猛講師がキャリアデザインⅠの第2回授業で作成される「夢への地図」を学科の専門科目「ビジネス基礎Ⅰ・Ⅱ」において発展利用している事例が紹介された。「マインドマップ」を用いた授業は、「自己分析」「他己分析」

「ブランディング」というワークと連動されることで学生の学ぶ意識の深化に有効に活用されているようである。質疑応答でも類似の手法を用いた授業を行っている教員から実施上の留意点などについて質問が出された。次に短大生活芸術科の小松太志講師がキャリアデザインⅠの第15回授業で作成する「キャリアプランニングシート」の活用方法を他大学・高校の事例から紹介してくれた。

今回の二つの報告は、アドバイザーによる学生指導にも活用できるものであり、学科を中心に教職員全体で取り組むことを掲げる本学のキャリア教育の理解を深めてくれたと思われる。

学園に対する理解を深めるために―補助金と大学ポートレートについて

演者：横田 英隆（経理部長・充実研）／加瀬 洋（総務部総務課長・充実研）

司会：菅野 英樹（入学事務 広報部係長・充実研）

本学園における収入の中で「学生生徒等納付金」に次ぐ収入源が「補助金」である。私学に対する「補助金」交付額は年々縮小傾向にあるが、東日本大震災以降の被災地向け特別補助の拡充とともに、学生数の減少に伴う「学生生徒等納付金」の落ち込みの影響により、本学園「補助金」の収入全体に占める割合は高まりつつある。更に、今年度より「被災私立大学等復興特別補助」に福島県内の私立大学・短期大学向けの新規メニューが追加されることから、改めて「補助金」に対する理解を深めることとした。

また、10月より「大学ポートレート」（私学版・教育情報公開サイト）が公表されることになるが、文科省から特色ある情報の公表や活用の充実が求められていることを踏まえ、その開始にあたり「大学ポートレート」への正しい理解を促すことを目的として、実務主体となる職員向けの説明会を開催することとする。

司会者まとめ

SD 部会の研修会では、2人の学園教育充実研究会 SD 部門委員から、学園を取り巻く現状に関する講演があった。横田充実研 SD 部門長からは、私学に対する補助金交付の基本的な仕組み、近年の交付に関する条件、また本学における補助金の役割等のお話があった。また、加瀬充実研 SD 委員からは、近年の大学行政における情報公開の流れの一つである「大学ポートレート」の背景、本学での導入の在り方についてのお話があった。いずれも、近年の大学を取り巻く情勢に関する必要不可欠な情報であった。本学の教職員としても当学園が置かれている現状を再認識する契機となった研修であった。



4. 各種研修会・ワークショップ

本学では、平成 24 年度から、「各種研修会」を導入した。それまでも、「説明会」の類は行われてきたが、この取り組みは、年間を通じて組織的・制度的に職能開発を目的とした「研修」を行おうというものである。

初年の平成 24 年度には、実施は 1 回に留まった。平成 25 年度には、他の委員会の協力も得てこれを 3 回にまで拡充した。本年度は、これをさらに拡張すべく、①研修開催主体の他部署・委員会への開放、②年間参加回数ガイドラインの導入を行った。その結果として、本年度は、合計 11 回、参加人数延べ 573 人という飛躍的な研修会の広がりが見られた。本年度は「各種研修会」が本学の制度として確立した年と位置づけることが出来る。

日程		タイトル	主催	参加人数
1	7/2	高等学校における進路指導の状況について	学園教育充実研究会 FD 部門・学生募集企画委員会	59
2	8/5	第 1 回 アドバイザー業務研修会—基礎編—	学生生活部・学園教育充実研究会 FD 部門	79
3	8/22	学士教育の質的転換に向けて—職員による学修支援—	学園教育充実研究会 SD 部門	18
4	9/3,4	グループウェア・ステップアップ研修会	学園教育充実研究会 SD 部門・IT 管理運営委員会	84
5	10/1	科研費説明会—応募手続きの理解と獲得に向けて—	教務部	47
6	11/19	食物栄養学科セミナー：てんかん研究の潮流— 症候群から遺伝子病へ—	大学食物栄養学科	31
7	11/21	ラーニング・コモンズ研修会：同志社大学良心館 ラーニング・コモンズの目的と実際の運用	図書館・学園教育充実研究会	42
8	2/10	第 2 回アドバイザー研修会—コーチングを学ぶ—	学生生活部・キャリア推進委・学園教育充実研究会	50
9	2/13	私学を取り巻く諸情勢と学校法人郡山開成学園の現状	学園教育充実研究会 SD 部門	83
10	2/18	障がい学生支援研修会—発達障がいと思われる気になる学生への理解と対応について—	障がい学生支援委員会	52
11	2/24	食物栄養学科セミナー：学校における食育の推進と学校給食の役割	大学食物栄養学科	28
計				573

高等学校における進路指導の状況について

大学教育のユニバーサル化の進展に伴い、近年、高大接続・連携の重要性が叫ばれている。しかし、現状、大学教員の高校教育に対する知識は必ずしも豊富だとはいえない。今後、有機的な高大接続・連携を実現する為には、大学教員の高校教育に対する理解を深めることが不可欠であろう。また、学生募集という観点からも、受験生の実情や、指導する先生方の大学側への要望を知ることは不可欠であろう。そこで、現役の高等学校の進路指導部の先生をお迎えして、今日の受験生の特徴や、進路指導の実情についてお話を伺った。

■ 主催

学生募集企画委員会・学園教育充実研究会（共催）

■ 実施日程

平成 26 年 7 月 2 日（水） IV限 14:30～16:00

■ 会場

創学館 2F 521 教室

■ 講師

福島県立葵高等学校進路指導部長 新田友喜先生

■ 講習内容（抜粋）

- (1) 学年別の進路指導内容
- (2) 最近の進路指導の傾向について
- (3) 大学・短大への進学指導の際に必要なとなる情報



平成 26 年度 第 1 回 アドバイザー業務研修会—基礎編—

アドバイザー制度は、本学が開学以来継続してきた本学の根幹をなす制度である。今回、アドバイザーの方々には業務に役立つ知識を得ていただくこと、また、アドバイザーを担当していない教職員の方々にはアドバイザー業務に対する理解を深めていただくことを目的として、「アドバイザー業務研修会」を実施した。第 1 回は基礎的内容を中心とした。

■ 主催

学生生活部・倫理委員会・学園教育充実研究会（共催）

■ 日程

平成 26 年 8 月 5 日(火) 16:10～17:40

■ 会場

創学館 2F 521 教室

■ 講師

田辺 真弓先生（学生生活部部長／郡山女子大学短期大学部 家政科福祉情報専攻教授）

石堂 常世先生（倫理委員会委員長／郡山女子大学人間生活学科教授・副学長）

■ 講習内容

(1) アドバイザーの職務について

平成 26 年度版「アドバイザーの手引き」をもとに、アドバイザーとしての心構え、アドバイザーが行うべき職務や諸手続き等の基礎的内容についての説明を行なった。

(2) ハラスメント防止の自覚と啓発

全ての教職員が知っておくべきハラスメントについての基本的知識として、ハラスメントとはどのようなことか、ハラスメントの種別、ハラスメントの防止と事案解決法、ハラスメント防止啓発活動等について解説を行なった。



学士教育の質的転換に向けて―職員による学修支援―

平成 24 年の中央教育審議会のいわゆる「質的転換答申」を受けて、各大学で「能動的学修」「学生の自学自習時間の増加」といった改革が求められている。また、答申では、こうしたことを実現するに当たり、教員だけでなく、職員による学修支援の役割も強調されている。このことを踏まえて、本学でも学修支援に直接的な関係をもつ図書館、教務部、管財部の職員を中心として、今後の学生支援の在り方を検討するために、グループ討議を中心とする研修会をもつこととした。また、教員、学生も施設・整備の利用者の立場からこの討議に参加した。

■ 主催

学園教育充実研究会（SD 部門）／FD 部門協賛

■ 日程

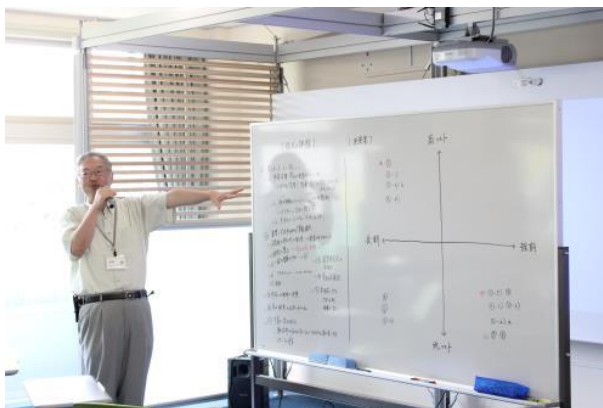
平成 26 年 8 月 22 日（金）10:30～12:00

■ 会場

62 年館 ラーニング・コモンズⅡ

■ 実施内容

- (1) 趣旨説明（横田 SD 部門委員長）
- (2) 「質的転換答申」とは（垣花 FD 部門委員長）
- (3) テーマ別グループ・ディスカッション：理想の学修環境を作ろう（60 分）
- (4) シェアリング（総合司会：安齋 SD 部門委員）



グループウェア・ステップアップ研修会

平成 23 年の 11 月にグループウェアが導入されて、3 年近くが経過し、教職員の間でもグループウェアは必須のツールとなっている。初歩的な使い方は、ほとんどの教職員がマスターしていると思われるが、教職員の知識にばらつきがあるのも事実である。本研修会では、事前アンケートから要望が多かった事項を中心に、グループウェアの一步進んだ活用法を紹介した。

■ 主催

IT 管理・運営委員会・学園教育充実研究会共催

■ 日程

①平成 26 年 9 月 3 日(水) 10:30 ~ 12:00/②9 月 4 日(木) 10:30 ~ 12:00

■ 会場

芸術館 1 階 大教室

■ 講師

山口 猛先生（郡山女子大学短期大学部 家政科福祉情報専攻講師）

■ 実施内容（抜粋）

- (1) グループウェアを自宅・出張先から使うには
- (2) 学生にメールで連絡する方法
- (3) ショーメールを自分の携帯に転送する方法
- (4) 自分だけのマイグループを作成する



科研費説明会—応募手続きの理解と獲得に向けて—

教務部では、従来、科学研究費の応募促進の為に説明会を実施してきた。今年度は、これに獲得の為に心構えに関する講演、研究上の不正防止の為に講演を加えて研修会として位置づけた。

■ 主催

教務部・公的研究費不正防止推進委員会（共催）

■ 日程

平成 26 年 10 月 1 日（水） 16:10～17:40

■ 会場

521 教室

■ 講師

山本 裕詞先生（人間生活学科教授／教務部長・公的研究費不正防止推進委員）

石原 正道先生（人間生活学科准教授）

福島 寅太郎先生（文化学科教授）

■ 実施内容（抜粋）

- (1) 適正使用について（公的研究費不正防止推進委員会・教務部）
- (2) 科研費獲得に向けて（研修会参加報告）（人間生活学科 石原准教授）
- (3) 採択経験研究者報告（文化学科 福島教授）
- (4) 科研費について（教務部）



食物栄養学科セミナー：てんかん研究の潮流— 症候群から遺伝子病へ—

国立病院機構静岡てんかん神経医療センターはてんかん病床 200 床を有する世界最大規模のてんかんセンターである。演者は、30 年の長きにわたりこのセンターに勤務し、多くの難治例を経験してきたが、最も難治なてんかんが Dravet 症候群(以下 DS)であった。現今てんかん学の最大のトピックは Na イオンチャンネル病としての DS の確立である。当初は演者の関心領域である DS の遺伝学的研究のみを紹介する予定であったが、聴講される諸先生の専門性の多様性に鑑み、前半はてんかんについての一般的な知識の普及に費やしたい。演題と講演内容に乖離があることをお許し願いたい。なお、てんかんの大多数は遺伝病ではない。単一遺伝子によるてんかんは DS など限られた特殊なてんかんである。

前半では時間が許す限り代表的なてんかん症候群を紹介したい。てんかんに対する理解を深めていただければ幸いである。

■ 主催

大学 食物栄養学科

■ 日程

平成 26 年 11 月 19 日 (水) 16:10-17:40

■ 会場

521 教室

■ 講師

藤原 建樹先生 (大学食物栄養学科 教授)

■ 実施内容

- (1) てんかんの一般的な事項
- (2) Dravet 症候群 (DS) の遺伝学的研究



ラーニング・コモンズ研修会：同志社大学良心館ラーニング・コモンズの目的と実際の運用

ラーニング・コモンズとは、学生同士が協働で学べるような設備を整えた学習空間のことである。近年、高等教育におけるアクティブラーニング（能動的学習）の必要性が叫ばれる中、多くの大学に導入されつつある。本学でも平成 26 年 4 月から図書館 3 階、62 年館 2 階に 2 つのラーニング・コモンズを開設した。今回は、ラーニング・コモンズの先進的な取り組みで知られる同志社大学から、岡部晋典先生をお迎えして、ラーニング・コモンズの効果的な運営の仕方について示唆をいただいた。

■ 主催

図書館・学園教育充実研究会（共催）

■ 日程

平成 26 年 11 月 21 日（金） 12：50-14：20

■ 会場

ラーニング・コモンズⅡ

■ 講師

岡部 晋典先生（同志社大学 学習支援・教育開発センター助教）

■ 実施内容（抜粋）

- (1) アクティブ・ラーニングの概要
- (2) 高等教育の質的転換
- (3) 同志社大学での事例
- (4) 運営を通して見えてきたこと



平成 26 年度 第 2 回アドバイザー研修会—コーチングを学ぶ—

会話を通して部下のやる気を引き出すコーチングは、今やビジネスの世界でリーダーが身につけるべきスキルとしての認識が広まっている。また、教育・医療・介護などの専門家が対象者の能力を引きだし自主性を高めるために、コーチングを採り入れる試みも広まっている。こうしたスキルは、アドバイザーがよりよい学生指導を行う上でも、大いに参考になると考えられる。今回はコーチングの基本理論を理解し、それが「わかる」と同時に、実際に体験を通して「使える」ようになることを目指す。

■ 主催

学生生活部・キャリア教育推進委員会・学園教育充実研究会

■ 日程

平成 27 年 2 月 10 日(火) 12:50～15:00

■ 会場

62 年館 3F 631 教室

■ 講師

木須八重子先生（（公財）せんだい男女共同参画財団 理事長）

■ 実施内容（抜粋）

- (1) 「コーチング」についての講義
- (2) 「コーチング」のグループワーク



私学を取り巻く諸情勢と学校法人郡山開成学園の現状

18歳人口の顕著な減少、大学改革の進展等、今日、私学を取り巻く情勢は大きく変化してきている。このような情勢にあって、本学を含む私学は今後どのように対応しなければならないのか。本研修会では、日本私立学校振興・共済事業団 私学経営情報センター長の谷地明弘氏をお招きして、他大学の事例等を交えながら、今後の私学の在り方についてご示唆をいただいた。

■ 主催

学園教育充実研究会（SD 部門）

■ 日程

平成 27 年 2 月 13 日（金）14:30～16:00

■ 会場

創学館 521 教室

■ 講師

谷地明弘先生（日本私立学校振興・共済事業団 私学経営情報センター長）

■ 実施内容

- (1) 高等教育を取り巻く状況
- (2) 近年の大学改革の方向性
- (3) 平成 26 年度 入学者の状況
- (4) 大学ポートレートについて
- (5) 学校法人郡山開成学園の現状
- (6) SD の事例



障がい学生支援研修会：発達障がいと思われる気になる学生への理解と対応について

Aさんは私がさっきの授業で指示したことを忘れている。友達関係もうまくいってないらしい。いつも無表情で一人にいるけど、この学生は大丈夫なんだろうか。こんな思いを感じておられる先生がいらっしゃるのではないのでしょうか。今年の研修会では、昨年度の研修会の内容を受けて、さらに発達障がいと思われる学生を理解し、具体的にどのように対応していくかを、今ドラマチックで驚くほどにすすんでいる最新の研究成果を紹介しながらお話しします。

■ 主催

障がい学生支援委員会

■ 日程

平成 27 年 2 月 18 日（水）12:50～14:20

■ 会場

芸術館 1 階 大教室

■ 講師

富士盛 公年先生（郡山女子大学短期大学部 幼児教育学科 教授）

■ 実施内容

- (1) 自閉スペクトラム症の診断
- (2) 自閉スペクトラム症の原因について分かってきたこと
- (3) 大学入学時点の自閉スペクトラム症の状況、特に 2 次障がい
- (4) 自閉スペクトラム症＋愛着障がいの学生への対応が困難であること
- (5) 教員による具体的な対応
- (6) よくある質問と回答



食物栄養学科セミナー：学校における食育の推進と学校給食の役割

平成 17 年に食育基本法が制定され、子どもたちが食に関する正しい知識と望ましい食習慣を身に付けることができるよう、学校においても積極的に食育に取り組むことが示された。平成 20 年に改訂された小中学校の学習指導要領においては、総則に「学校における食育の推進」が盛り込まれたほか、関連する各教科等での食育に関する記述が充実された。また、平成 21 年 4 月施行の改正学校給食法においても、「学校における食育の推進」が位置付けられたとともに、栄養教諭が学校給食を活用した食に関する実践的な指導を行うことについても明記された。

このような時期に演者は、福島県の学校栄養職員から栄養教諭となり、それまで担ってきた学校給食の管理に加え、関連教科等における食に関する指導も行ってきた。本セミナーにおいては、演者が栄養教諭として勤務した学校給食施設（小学校・学校給食センター）での食に関する指導の実際と、これまでの実務経験から明らかになった学校給食の栄養管理における課題について紹介する。

■ 主催

大学 食物栄養学科

■ 日程

平成 27 年 2 月 24 日(火) 16:10～17:40

■ 会場

栄養教育実習室

■ 講師

亀田明美先生（大学食物栄養学科 准教授）

■ 実施内容（抜粋）

- (1) 学校における食育の推進
- (2) 栄養教諭の職務の実際
- (3) 学校給食の栄養管理における課題
- (4) 福島県内の栄養教諭等を対象とした栄養管理状況調査の報告
- (5) 学校給食に期待すること



5. 事務局職員 外部研修参加記録

事務局職員においては、学内研修だけでなく、外部団体主催の研修に参加することが、SD 活動において重要である。ここでは、本年度の各部署の外部団体主催の研修会への参加状況をまとめた。

総務部

件名	主催者	場所
1 大学ポートレートに関する学校法人向け説明会	日本私学・振興共済事業団	私学事業団九段事務所（東京都千代田区）
2 非正規職員の雇用管理とその実務	（公社）私学経営研究会	東京ガーデンパレス（東京都文京区）
3 平成 26 年度 私立大学等経常費補助金説明会（補助金事務責任者向け）	日本私学・振興共済事業団	仙台ガーデンパレス（仙台市）
4 平成 26 年度 科学研究費助成事業説明会（実務担当者向け）	（独法）日本学術振興会	立教大学（東京都豊島区）
5 私立大学退職金財団新システム利用説明会	（公財）私立大学退職金財団	仙台ガーデンパレス（仙台市）
6 平成 26 年度 事務研修会	日本私立大学協会東北支部	福島学院大学駅前キャンパス、ホテル辰巳屋（福島市）
7 （公財）私立大学退職金財団業務説明会	（公財）私立大学退職金財団	アルカディア市ヶ谷（東京都千代田区）
8 学校給与システム年末調整操作セミナー	グレースシティ(株)	JC-21 教育センター研修室（仙台市）
9 寄附行為・就業規則および諸規定の作成と再検討	（公社）私学経営研究会	東京ガーデンパレス（東京都文京区）
10 平成 26 年度大学設置等に関する事務担当者説明会	文部科学省高等教育局	メルパルク東京（東京都港区）
11 平成 26 年度大学設置等に関する事務担当者説明会	日本私立大学協会	アルカディア市ヶ谷（東京都千代田区）
12 平成 26 年度学校法人の運営等に関する協議会	文部科学省高等教育局	品川きゅりあん（東京都品川区）

経理部

件名	主催者	場所
1 平成 26 年度 私立大学等経常費補助金説明会（補助金事務責任者向け）	日本私学・振興共済事業団	仙台ガーデンパレス（仙台市）
2 平成 26 年度 科学研究費助成事業説明会（実務担当者向け）	（独法）日本学術振興会	立教大学（東京都豊島区）
3 学校法人会計基準の改正と導入実践研修会	グレースシティ(株)	ホテルグランドパレス（東京都千代田区）
4 新会計基準の基本構造と財務の戦略的課題	特定非営利活動法人大学職員サポートセンター	國學院大學 渋谷キャンパス
5 平成 26 年度日本私立大学協会経理部課長相当担当者研修会	日本私立大学協会	グランドプリンスホテル広島(広島県広島市)
6 平成 26 年度私立短大経理事務等研修会	（一財）私学研修福祉会	A N A クラウンプラザホテル神戸（兵庫県神戸市）
7 平成 26 年度決算・監査の留意点と改正学校法人会計基準への移行	特定非営利活動法人学校経理研究会	学生情報センター（東京都渋谷区）

管財部

件名	主催者	場所
1 平成 26 年度エネルギー使用合理化事業者支援補助金公募説明会	（一財）都市ガス振興センター	東京ガス(株)滝野川ビル（東京都北区）
2 平成 26 年度 私立大学等経常費補助金説明会（補助金事務責任者向け）	日本私学・振興共済事業団	仙台ガーデンパレス（仙台市）
3 平成 26 年度 科学研究費助成事業説明会（実務担当者向け）	（独法）日本学術振興会	東北学院大学土樋キャンパス 8 号館（仙台市）
4 環境推進担当者ミーティング ー全社を巻き込むエコ活動ー	東京商工会議所、アミタ(株)	東京商工会議所ビル（東京都千代田区）
5 大学高校実践ソリューションセミナー 2014 東京	(株)内田洋行	(株)内田洋行新川本社（東京都中央区）
6 平成 26 年度 学校等における省エネルギー対策に関する講習会	文部科学省大臣官房文教施設企画部	放送大学 東京文京学習センター
7 平成 26 年度エネルギー使用合理化事業者支援補助金事務通知説明会	（一財）都市ガス振興センター	都市ガス振興センター（東京都港区）
8 自衛消防業務（再）講習	（公社）仙台市防災安全協会	仙台市防火管理研修センター（仙台市）

	件 名	主 催 者	場 所
9	第6回エコ大学ランキング表彰式出席	特定非営利活動法人エコリーグ	JICA 地球ひろば（東京都新宿区）

入学事務・広報部

	件 名	主 催 者	場 所
1	大学ポートレートに関する学校法人向け説明会	日本私学・振興共済事業団	仙台ガーデンパレス（仙台市）
2	平成26年度大学入学者選抜・教務関係等事項連絡協議会	文部科学省 高等教育局 大学振興課	メルパルク東京（東京都港区）
3	福島大学広報セミナー	福島大学	福島大学（福島市）
4	大学募集戦略セミナー	㈱リクルートマーケティングパートナーズ 進学事業本部	仙台トラストタワー（宮城県仙台市）
5	学生募集担当者セミナー	㈱ディスコ	TKP ガーデンシティ仙台（仙台市）
6	大学広報特別セミナー～高校生に伝える広報から伝わる広報～	㈱さんぼう	新宿文化センター（東京都）
7	2014著作権セミナー	日本著作権教育研究会	東京国際交流館プラザ平成メディアホール（東京都）

教務部

	件 名	主 催 者	場 所
1	大学ポートレートに関する学校法人向け説明会	日本私学・振興共済事業団	仙台ガーデンパレス（仙台市）
2	平成26年度 大学入学者選抜・教務関係事項連絡協議会	文部科学省 高等教育局	メルパルク東京（東京都港区）
3	平成26年度 私立大学等経常費補助金説明会（補助金事務責任者向け）	日本私学・振興共済事業団	仙台ガーデンパレス（仙台市）
4	平成26年度 科学研究費助成事業説明会（実務担当者向け）	（独法）日本学術振興会	東洋大学白山キャンパス（東京都文京区）
5	平成27年度大学入学者選抜入試センター試験福島県連絡会議	大学入試センター試験福島県連絡会議 世話大学 福島大学	福島大学（福島市）

	件 名	主 催 者	場 所
6	平成 27 年度大学入学者選抜入試センター試験 試験場設置大学連絡協議会	(独法) 大学入試センター	昭和女子大学人見記念講堂(東京都世田谷区)
7	平成 27 年度大学入学者選抜入試センター試験 試験場設置大学連絡協議会	(独法) 大学入試センター	仙台国際センター(仙台市)
8	平成 26 年度 事務研修会	日本私立大学協会東北支部	福島学院大学駅前キャンパス、ホテル辰巳屋(福島市)
9	平成 27 年度大学入学者選抜入試センター試験 試験場設定大学連絡協議会	(独法) 大学入試センター	北海道大学(札幌市)
10	平成 27 年度私立短大教務担当者研修会	日本私立短期大学協会	A N Aクラウンプラザホテル神戸(兵庫県神戸市)
11	大学高校実践ソリューションセミナー 2014 東京	㈱内田洋行	㈱内田洋行新川本社(東京都中央区)
12	平成 27 年度大学入学者選抜入試センター試験入試担当者連絡協議会(第2回目)	(独法) 大学入試センター	昭和女子大学人見記念講堂(東京都世田谷区)
13	平成 27 年度大学入学者選抜入試センター試験入試担当者連絡協議会(第2回目)	(独法) 大学入試センター	東北大学百周年記念会館 川内萩ホール(宮城県仙台市)
14	平成 26 年度大学設置等に関する事務担当者説明会	文部科学省高等教育局	メルパルク東京(東京都港区)

学生生活部

	件 名	主 催 者	場 所
1	平成 26 年度 東北地区学生指導研修会	東北地区学生指導研究会	福島大学
2	平成 26 年度 学生教育研究災害障害保険説明会	(公財) 日本国際教育支援協会	仙台東京海上日動ビル(仙台市)
3	平成 26 年度 日本学生支援機構奨学金適格認定・返還指導研修会	(独法) 日本学生支援機構	パレスへいあん(仙台市)
4	ハラスメント防止研修	アカデミアコンソーシアム福島、福島大学 共催	福島大学
5	平成 26 年度 日本学生支援機構奨学業務連絡協議会	(独法) 日本学生支援機構	パレスへいあん(仙台市)

就職部

	件 名	主 催 者	場 所
1	平成 26 年度 東北地区私立大学就職問題協議会	東北地区私立大学就職問題協議会	郡山ビューホテルアネックス
2	東北地区私立大学合同就職セミナー	東北地区私立大学就職問題協議会	仙台サンプラザホール（仙台市）
3	平成 26 年度 東北地区私立短期大学就職指導研究会	東北地区私立短期大学就職指導研究会	四季彩 一力（磐梯熱海町）
4	各養成校との懇談会出席	（一社）宮城県私立幼稚園連合会	仙台ガーデンパレス（仙台市）
5	2015 年度 採用戦線中間総括セミナー	㈱マイナビ	A E R（仙台市）
6	平成 26 年度 東北地区学生指導研究会	東北地区学生指導研究会	福島大学（福島市）
7	平成 26 年度 私立短期大学就職担当者研修会	（一財）私学研修福祉会	ホテルメトロポリタンエドモント（東京都千代田区）

図書館

	件 名	主 催 者	場 所
1	2014 年度 私立大学図書館協会東地区部会総会及び関連諸会議	私立大学図書館協会東地区部会	成蹊大学 4 号館ホール(東京都武蔵野市)
2	第 31 回福島県内大学図書館連絡協議会総会	福島県内大学図書館連絡協議会	いわき明星大学（いわき市）
3	第 69 回東北地区大学図書館協議会総会	東北地区大学図書館協議会	岩手大学図書館（岩手県）
4	2014 年度 私立大学図書館協会東地区部会研究部研修会	私立大学図書館協会東地区部会	早稲田大学 国際会議場
5	国立大学図書館協会東北地区協会平成 26 年度職員研修	国立大学図書館協会東北地区協会	東北大学（宮城県）
6	機関リポジトリ新任担当者研修	機関リポジトリ推進委員会	東北学院大学（宮城県）

家庭寮

該当無し

高校事務室

	件 名	主 催 者	期 日	場 所
1	平成 26 年度 第 1 回事務担当者研修会	福島県私立中学高等学校協会	9 月 18 日～9 月 19 日	ホテル美里（いわき市）
2	平成 26 年度 第 25 回研修会	福島県私立中学高等学校保護者会	10 月 9 日～10 月 10 日	山房 月之瀬（福島市）
3	平成 26 年度 第 2 回事務担当者研修会	福島県私立中学高等学校協会	2 月 19 日～2 月 20 日	ホテルバーデン（郡山市）

幼稚園事務室

該当無し

学園教育充実研究会（SD 部門）

	件 名	主 催 者	場 所
1	学内研修のあり方と人財育成への取り組み	（公社）私学経営研究会	東京ガーデンパレス（東京都文京区）
2	第 9 回東北大学全学教育 FD	東北大学高度教養教育・学生支援機構	東北大学川内キャンパス（宮城県）

平成 26 年度 学園教育充実研究会（大学・短大部門）

部門	名前	所属
FD 部門	垣花 真一郎（委員長）	家政学部 人間生活学科
	楢野 信子	家政学部 食物栄養学科
	磯部 哲夫	短期大学部 音楽科
	松田 理香	短期大学部 生活芸術科
	郡司 尚子	家政学部 食物栄養学科
	泉 秀生	家政学部 人間生活学科
SD 部門	横田 英隆	経理部
	加瀬 洋	総務部
	高橋 一	経理部
	菅野 英樹	入学事務部
	鈴木 美由紀	学生生活部
	安齋 文明	管財部
	村田 菜織	高校事務室
事務担当	鈴木 光洋	教務部
	安藤 岐恵	教務部